校長室だより

NO.９　平成２８年　９月１５日

松原市立松原東小学校長　吉岡　英治

二十四節季　「秋分（しゅうぶん）」

9/23 頃八月中 二至二分（葉月：はづき）太陽視黄経 180 度
陰陽の中分となれば也（暦便覧）

暑い日は減り代わりに冷気を感ずる日が増える。昼と夜の長さがほぼ同じになることで、この日は秋彼岸の中日でもある。秋の七草が咲き揃う頃である。

暑い夏の時期にもお世話のおかげで、すくすく成長しましました。９月３日にお米作りも、糸張り作業を行いました。

さて、いよいよ実りの秋へまっしぐら！！

プールも終わり、運動会の種目の練習に各学年が取組んでいます。５，６年生はＯＮＥ（ひとつになる）を目標に、難しいことにも取組みますが、みんながやれる基本的なことを、いかに集中して合わせてできるかに、取組んでいます。本番まであと２週間、運動会当日をお楽しみにしてください。

成長の必要なプロセスのもと、反抗期を「今」通っているということです。何でも自分の気持ちを教えてくれた頃や、何でも親のいうことを聞いていた頃に戻って欲しいと考えるのは、「今」の否定になってしまいます。また、昔を懐かしむのも親の自然な気持ちなのですが、「前はあんなにいい子だったのに‥」と親に言われてしまうと、「うちの親は、いい子にしか興味がないんだ」と子どもに伝わり、「自分は価値のない人間だ」と感じてしまうことがあります。

接し方の一例として、だんだんと扱い方を大人の一歩にかえていってみてはどうでしょうか。

例えば、子どもが大きな音で音楽を聴いていたとします。ただ、その大きな音に耐えるということではありません。小さい子ども相手のように、頭ごなしに「大きな音を出してはいけません。」叱ることでもありません。対等な大人には、どう伝えるでしょうか？「音が大きすぎて、他の音が聞こえないので、音を小さくしてもらえる？」と理由を明らかにして、対応を求めてみてはどうでしょうか。叱ってしまうと、親の権威にさらに反抗したり、腫れ物に触るように扱われると居心地は悪くなりますよね。

次回は　「反抗期の子どもの接し方Ⅲ」